

## 整備費用の概算

令和 3 年 2 月  
都市計画課

## ○耐震補強費用の概算

工事内容

	本館改修 (補強+改修)	一部増築	附属棟改修	合計
整備面積 (㎡)	5,440	1,200	2,000	8,640
工事費用 (百万円)	1,424	463	60	1,947

補強後の使用期間を 20 年程度を想定。補強と同時に必要な改修工事、増床を行う。  
計画図参照。

工事費 : 1,947 (百万円)

## 概算費用について

本館改修の工事費 1,424 (百万円) のうち、耐震補強に要する内容を除く一般改修に要する工事費は 935 (百万円) を見込んでいる。

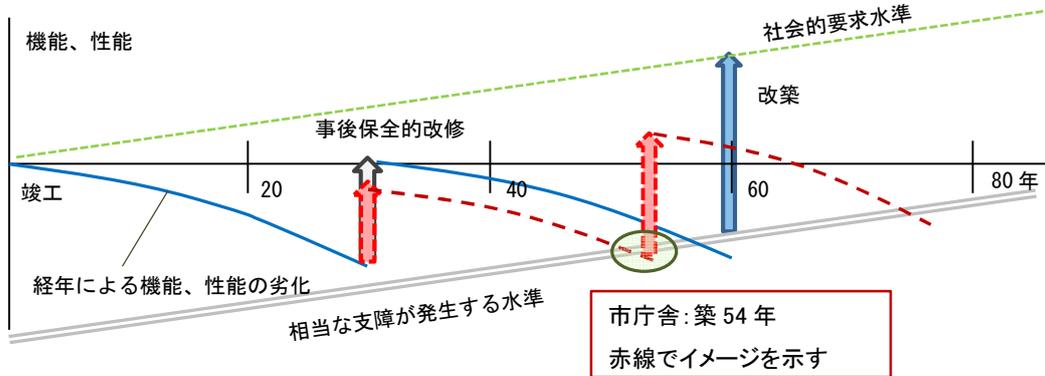
一般改修の水準については、別紙に示すとおり、耐震補強を行う方向が定められれば、その後、求められる要求水準を検討し、改修方針を定めることになる。それにより工事費も影響する。

現段階で、建替か改修か方向性を決める検討材料として、概算を提示したものである。

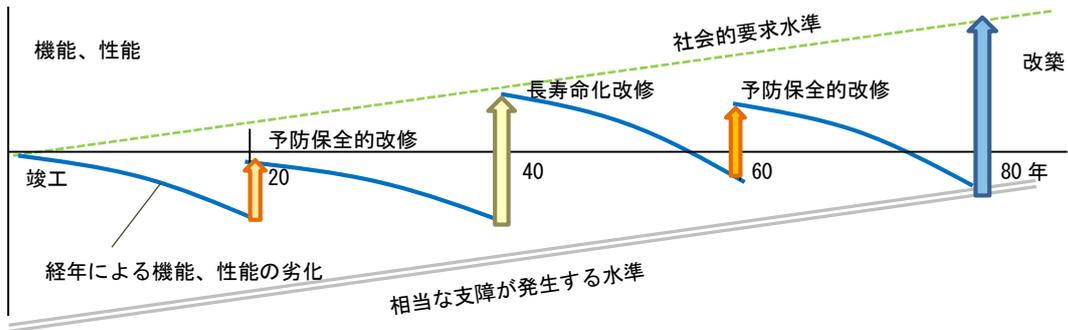
〔耐震補強費用の概算〕について追加資料

保全の考えについてイメージ図を示す。

○従来型保全



○長寿命化型保全



※改修内容

名称	内容	実施時期
事後保全的改修	劣化や損傷が表面化した後に改修を行う。 対症療法的に機能回復を図る。	従来型保全 30年目
予防保全的改修	損傷が軽微な早期の段階から予防的に改修を行う。 予防的に機能や性能の回復を図る。	長寿命型保全 20年、60年目
長寿命化改修	予防保全的改修に加え、機能向上的な改修を行う。 現在の社会的要求水準まで、機能や性能の向上を図る。	長寿命化型保全 40年目

◎市庁舎の改修について

保全のイメージは上記のとおりで、近年はストックを有効に活用するため、長寿命化保全の考えが求められている。個別施設毎に具体的な計画を立てて保全を行う。

市庁舎においても、耐震補強に加え一般改修を行う方針となった場合、現施設の改修履歴、劣化状況などを調査し、今後の求められる要求水準を検討し、改修方針を定めることになる。

今回、建替か改修か方向性を決める検討材料として、今後 20 年間の使用を想定した概算費用を算出した。